

平成 31 年 1 月 1 日に思う

年頭にあたり、村民皆さまのご健康とご多幸をお祈りしますとともに、本年が皆さまにとって輝かしい年でありますようご祈念申し上げます。

今年はずいぶん「節目の年」です。5 月には元号が変わります。そしてわが川上村は、明治 22 年に町村制が公布されてから 130 周年を迎えます。さらには、未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風から 60 年になります。

「節目」は物事の区切りであり、日本人は古来よりこれを大切にしてきました。今日までの歩みを学びとするとともに、心新たにさらなる飛躍を期する良い機会であり、川上村も一層の発展をめざす決意です。

さて昨年も異常気象に悩まされた 1 年であり、本村でも相次ぐ台風で村民の日常生活に大きな影響がありました。しかしながらその反面、危機に直面する村民の皆さまの「たくましさ」と「生きぬく力」をひしひしと感じ、大きな勇気をいただいたように思います。

また、2040 年ごろの厳しい人口予測が発表され、かつ将来の自治体のあり方として「圏域」制度の導入に関する議論が沸き起こる中であって、国の地方制度調査会において「山村の実態」を述べる機会をいただいたこと。石田総務大臣が本村を訪問・視察されたことを機に、安倍首相が町村議会議長会全国大会の挨拶において本村の取り組みを称賛されたこと。さらには ESD(持続可能な開発のための教育)において、川上宣言が「良き教材となる」という心強い評価がされるなど、ますます水源地の村づくりの価値が高まっています。

年のはじめに、村づくりの方向性にあやまりがないことを、たくま

しい皆さまとともに確信したいともいます。

早稲田大学の宮口桐迪名誉教授が口にする村づくりの3要素は「この地で生きぬく強い意志を持った村民がいること」「違った価値観や想像力を持った若者がいること」そして「前をしっかりと向く行政職員がいること」が不可欠だということです。まさに“役者は揃っている”と思います。

今年^{つちのとい}は己亥。機敏かつ柔軟に、しっかりと前へ進みます。
今後どうぞよろしく申し上げます。